



「兵士の告白」初演を聴く

加藤良一 2022年12月16日

歌唱表現と演技力が高く評価され、幅広いレパートリーがある秋本悠希さんのリサイタルを聴く機会を得ました。

「時代を超えて愛される 日本歌曲・唱歌・愛唱歌」と題し、すべて日本歌曲というプログラムでした。

2022年12月15日

川口総合文化センター・リア音楽ホール

秋本悠希 メゾソプラノ

菊地沙織 ピアノ

〔第一部〕

「歌をください」、「荒城の月」、「浜辺の歌」、「里の秋」、「ペチカ」、「美濃びとに」

〔第二部〕

谷川俊太郎作詩・根本卓也作曲

『兵士の告白 1. 大小 2. 死 3. 誰が…… 4. 兵士の告白 5. くり返す』

「かんぴょう」、「たあんき ぼーんき」、「薊の花」、「蘇州夜曲」、「月の沙漠」

「あの鐘を鳴らすのはあなた」

今回のリサイタルの目当ては、なんとといっても新作初演『兵士の告白』でした。

作曲家の根本卓也さんの主な仕事はオペラの世界とのこと。しかし、フリーランスゆえ、コロナ禍で仕事が減ったため、ふだんできないことに手を伸ばしているうち、第2次世界大戦などに関連した作品に触れ、いつしか戦争について想いを深めるようになったといいます。その中で出会った谷川俊太郎さんの詩に魅せられ、2020年12月に作曲、2021年に演奏する予定でしたが、コロナ禍で演奏の機会を失い、ようやく今回の「世界初演」となりました。

「大小」「死」「誰が……」は、1964年の詩集『落首九十九』に収められ、「兵士の告白」と「くり返す」は1968年に別の詩集として発表されたものです。『兵士の告白』はいわば反戦の詩を集めた曲集です。

秋本さんによると、それぞれの曲は以下のような特徴を備えています。

1曲目「大小」は、軍隊風のパロディ仕立てとなっており、作曲家からは、戦時中のラジオから聞こえてくるアナウンサーの声のような独特の声で歌ってほしいと要望されたといえます。

小さな戦争やむをえぬ／大きな戦争防ぐため／小さな不自由やむをえぬ／
大きな自由守るため／……／大は小をかねるとき／量は質をかねるとき

2曲目「死」

死因が分かったところで／死が説明できるわけではない／……／死は／死
／死は突然にやってくる／何の説明もなく

3曲目「誰が……」

誰が殺すのか？／無名の兵士を／目に見えもしない国境の上で／誰が造る
のか！／冷たくなまぐさい銃を／子供を愛撫するその手で／……／みんな
その誰かを探している／自分以外の誰かを……

「死」と「誰が……」は、拍子感のない曲となっています。

4曲目「兵士の告白」は、カタカナで書かれた詩です。調性のない曲で、わざと音程を外すなどしています。

殺スノナラ／名前ヲシッテカラ殺シタカッタ／殺スノナラ／一対一デ殺シ
タカッタ／……／殺サレル者ヨリモ殺ス者ノ方ガ／何故コンナニ不幸ナノ
カ／……／殺スノナラアアセメテ／ナキナガラ殺シタカッタ

終曲「くり返す」については、作曲家の根本さんはチェンバロも弾く方であり、古典楽曲風に仕上げたといえます。

くり返すことができる／あやまちをくり返すことができる／……／だがくり返すことはできない／人の命をくり返すことはできない／……／私たちはくり返すことができる／他人の死なら／私たちはくり返すことはできない／自分の死を

最後の「自分の死を」はフォルティッシモで歌い上げ、そして静かに終わります。

Youtubeにリサイタル当日のリハーサルがアップされています。お聴きください。

<https://www.youtube.com/watch?v=Zkr1LJilbzI>

この作品の発表がコロナ禍で延期を余儀なくされているうちに、ロシアによるウクライナ侵攻という悲惨な戦争が勃発し、期せずして反戦歌のようになりました。

秋本悠希 リンク集

<https://linktr.ee/yukiakimoto>

秋本悠希 twitter

https://twitter.com/akimoto_yuki

Back

音楽・合唱TOPへ

Home

HOME PAGEへ